

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・教職員・児童や地域の方々には、学校教育目標に関して9割以上、浸透している。しかし、保護者15%の方には、教育目標や教育方針について知られていないと読み取れる。発信方法やその工夫が必要であると捉える。
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決 への方策	・保護者と関わる場面では、学校教育目標に触れる機会を設ける。特に、学校公開や懇談会等を活用し、引き続き丁寧に周知をしていく。学校だよりや学校ホームページに記載する。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・保護者や地域の方へはなかなか難しいと思いますが割合はかなり高いと思います。これは伝え続けるものだと思います。 ・教職員の方は①が増えることを望みます。 ・教育方針が保護者の15%が知られていないというその要因は教育委に対し、関心が薄いのか、優先順位が低いのか、忙しすぎるのか図りかねるが大事な事柄については一方通行の通信だけでなく双方向的な通信を取り入れたらどうか返信を求めるような丁寧なアプローチが必要か。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤		

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課題	・教職員の肯定的評価が95%強に対し、児童、保護者、地域からの評価いずれも90%程の肯定的評価が得られている。教職員一人一人が日頃から児童を大切に考えた学級経営を実践しているというあらわれであるととらえる。
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■系列1 ■系列2 ■系列3 ■系列4 ■系列5	課題解決 への方策	・引き続き、教職員一人一人が、個の良さや可能性を発揮できるような学級経営を行い、チーム学校として一人一人の児童に寄り添う。 ・当番活動や係活動など、一人一人が活躍できる場を設定し、児童のよさを引き出す学級経営を実践する。
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者 評価委員会による 評価	・児童の大部分が学級での生活が楽しいと感じているのは良いことだと思う。 ・現場の教職員のこの結果はまだできる伸びしろがあるように思えます。最高値を目指して頑張ってほしいです。 ・地域から見た学校は、とてもよくやっているという印象が強い。
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について の分析・課題	・教職員の肯定的評価が90%に対し、児童、保護者、地域からの評価がいずれも90%以上の肯定的評価が得られている。教職員一人一人が工夫して授業を行っていること、学び合い学習の推進等、取り組んでいるあらわれであるととらえる。
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策	・学校課題研究、校内研修を通して学び合い学習の推進を図り、主体的、対話的で深い学びの授業の実践を重ねる。
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価	・学び合い学習はとても良い授業だと思います。教えられたり児童同士がすることで学習の楽しさも感じられると思いました。その中で消極的な児童のフォローとかはあるのでしょうか。 ・児童は否定的な意見も持っているように見えるが、控えめに表現する子もいるのではないかと。
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤		

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・教職員、児童、保護者、地域からの評価がいずれも85%以上の肯定的評価が得られている。ICT機器を積極的に活用できるようになり、その有効性を感じることができるようになってきている。
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・ICT機器のより効果的な活用について、情報視聴覚教育主任を中心に校内研修に取り組む。 ・ICTの活用と共に、ICTリテラシーについても児童・保護者へ周知していく。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・ICT器機を使う授業は日々革新もあると思います。学校側からも教職員が情報をえられるように講習等考えてほしいと思います。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・教職員の評価、児童、保護者、地域とも、肯定的意見が80%以上である。体育主任を中心として、体育の授業をはじめ、運動会、体育朝会など体育的行事を通して児童の体力向上に努めることができた。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・更なる体育授業の工夫・改善により、十分な運動量を確保できる授業実践を行うとともに積極的な外遊びの励行をする。 ・家庭での長期休み中における体力貯筋に取り組んでもらい、体力向上に繋げる。 ・校庭や体育館に体力向上につながる場や教具を設置する。 ・新体力テストの結果を分析し、学校課題の克服に向けた取組を行う。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・持久走が実施されないのは残念です。復活は可能でしょうか。 ・体力に関しては年々落ちていていると感じます。地域スポーツ少年団に所属していますが、身体を使っの表現力が落ちていているように感じます。 ・体力テストは埼玉県ですごく低かった結果をこれからどの様に改善してくいのが課題かと。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
生徒指導①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題	・肯定的評価が高数値となっている。組織的にいじめやトラブルの対応を行っていることが原因と考える。今後も家庭との連携を密に丁寧に対応を行っていくようにする。
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策	・管理職との連携や、生徒指導担当教諭を中心に、いじめ・トラブルへの組織的対応を図るとともに、保護者とのコミュニケーションを図る際に、どんな些細な事も(良し悪し軽重関係なく)学校での児童の様子を伝えるとより効果的である。 ・いじめ等に関する授業実践や公開 ・いじめ防止に関する学校側からの積極的な情報発信や情報提供
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価	・個別対応が必要なケースも想定される。学校のみでの対応で解決しない場合の対処についても検討すべき。 ・いじめやトラブルを先生や家族に伝えられるような環境であることを望みます。 ・過去の件もありますので、十分な配慮を取りながらいじめやトラブルのない指導をして欲しいです。 ・児童2割の回答が心配です。 ・児童の4人に一人が否定的な所が気になる。
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 ・肯定的評価が高いことから、教職員の指導が、一人一人の児童へと行き渡っていると考える。時間をかけて児童一人一人と向き合うよう教職員が努めていることが分かる。否定的評価の保護者もいるため、分析していく必要がある。
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 ・懇談会や学年だより等で保護者に対して、学校での児童の様子を丁寧に発信していくとともに、学校生活において些細なことでも児童への称賛を忘れないよう教育活動に取り組む。 ・児童の頑張りを保護者に見てもらえる機会を設け、家庭でも「褒められた」「認められた」と実感できるようにする。
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・地域・保護者と児童との間の信頼関係を全体的に築けると良い。(継続的に) ・児童のよさを伸ばすことは良いことだと思いますが、以前、夢や目標を持つ児童が少ないと聞きました。そのあたりと関係しているかもしれないと思いました。 ・いじめ問題対策としては健全な学級経営が必要。クラス全体で見るといじめに関わっているのは数人でクラスの大半が傍観者だ。「いじめる子」「いじめられる子」さらに「心弱き傍観者」「冷たい傍観者」「仲裁を買って出る子」5つのグループに分けられる。仲裁を買って出る子、心弱き傍観者の社会的スキルは高い。クラスの大半を占める傍観者は教育の力によって仲裁者側に回る可能性をはらんでいる。今こそ「学級経営力」が必要。健全な経営をしているクラスに深刻ないじめが発生することはない。逆に手抜き教育を行えばいじめ側に加担する可能性が出る。教師と子供の絆が重要。異質なものの自分の尺度に合わない人間を排除しようとするところからいじめは生まれてくる。小さいころから個性の違う友達を受け入れることをきちんと教えていれば子供はちゃんと理解できる。教師も親も生き方の理念・哲学をもつべき時ではないか。
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・肯定的評価が80%以上。特別支援教育に対し、理解が深まり、児童一人一人の特性を配慮した教育活動が行えていると考える。
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・特別支援教育コーディネーターを中心として、更にインクルーシブ教育を進めていく。 ・家庭と連携・協力しながら一人一人の児童の個に応じた教材・教具の工夫改善を行う。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・インクルーシブ教育の概念について保護者・地域の理解を併せて促進することが大切。 ・教職員が熱心にご指導されていると思いますが、10%無答なのが気になります。 ・個々の特性に合わせるのは大変だと思いますが、色々な方法があるという事はそれらの個性に対応する幅がある事だと思います。いろいろと試行錯誤を重ねながら頑張ってください。 大変かと思いますが、とても手厚く支援しているのを見かけます。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	・保護者の肯定的評価が80%を超えている。学校運営協議会や学校応援団との連携の様子を学校だよりや学校ホームページなどで周知している結果と言える。学校との協力、連携を常に保護者に周知できるよう学校は情報を発信していく必要がある。
	児童			課題解決 への方策	・更に協力体制を拡大する。できるときに参加できるようなボランティア活動体制の構築が必要である。そのためには、学校運営協議会や学校応援団の活動について、学校ホームページや学校だより等を使って発信していく。
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・働き方改革と直結する部分なので安全性確保の上、重点的に進めるべきである。 地域と共にある学校であるとの評価が高く良いと思う。
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		・学校に関わる様々な団体と交流を図ろうとする形を感じます。交流する事は連絡、目的等難しいとは思いますがその姿勢等は強く感じます。 ・保護者の8割の結果は真だと感じないです。でもこれから協力してくれる保護者が増えることを信じて私たちも協力していきます。 ・会員相互の意思疎通が聞かれて活動全体の動きが見て取れる。学校応援団の活動は目を見張るものがある。

杉下

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題	・働き方改革の必要性は教職員が感じ取ることができている。 ・ライフワークバランスがとれている教職員が多い。 ・教育課程の改善を行い、負担量を削減できてきたが、負担感を感じる教職員がいるのも確かである。
	児童			課題解決への方策	・計画的に仕事を進めていくことや、分担作業、学級運営補助員や学習支援員、スクールサポートスタッフへの業務依頼を積極的に行っていくことで気持ちに余裕を持って仕事ができる環境づくりを行っていく必要がある。
	保護者			学校関係者評価委員会による評価	・地域と連携して、開かれた学校を目指して、先生方の理解促進も心掛けてもらいたい。 ・働き方改革はこれから絶対に取り扱うべき課題だと感じています。大変だと思いますが、少しずつと組んで頂ければと思います。 ・この10問の評価が本当の結果だとこれだけで判断するのではなくこれからも課題に向かってほしいと思います。そのために私たちも協力できる体制を整えます。
	地域				